



地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん 北信地区経済動向

2019
令和元年
11-20
No.567

「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけします。

月例調査レポート



台風19号による千曲川等の河川の氾濫は、北信地域に甚大な被害をもたらしました。被害を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

長野市 篠ノ井
県消防学校 臨時ヘリポート

自衛隊ヘリで救出され、臨時避難所へ降り立った女性は裸足^{はだし}でした。それを見た消防隊員はすっと腰をかがませました。

- 長野しんきん
月例調査レポート 2
- 企業アンケート
IT活用とキャッシュレス決済 ② ... 6
- インタビュー
変革期の経営ビジョン 8
- 北信濃 江戸時代の風景 (63) 10
せき止められた犀川

「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫について](#)



長野信用金庫

概況 全産業

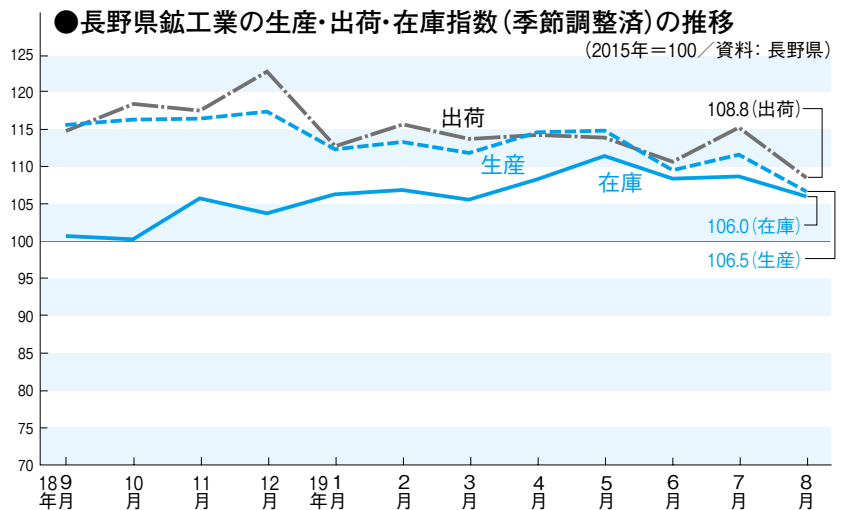
生産は2カ月ぶりの低下 前年同月比は2カ月ぶりの低下

◇令和元年8月の長野県鉱工業指数 (速報：季節調整済指数)

生産は106.5(前月比▲4.6%)で
2カ月ぶりの低下、出荷は108.8
(同▲5.5%)で2カ月ぶりの低下、
在庫は106.0(同▲2.6%)で2カ月
ぶりの低下となりました。

◇前年同月比(原指数)

生産は98.6(前年同月比▲9.5%)
で2カ月ぶりの低下、出荷は101.8
(同▲8.0%)で2カ月ぶりの低下、
在庫は105.2(同+5.3%)で6カ月
連続の上昇となりました。



[生産] 上昇…輸送機械、窯業・土石製品、木材・木製品など4業種

低下…食料品、その他、情報通信機械など13業種

[出荷] 上昇…情報通信機械、窯業・土石製品、木材・木製品など6業種

低下…はん用・生産用・業務用機械、食料品、電子部品・デバイスなど11業種

[在庫] 上昇…電子部品・デバイス、電気機械、非鉄金属など7業種

低下…情報通信機械、その他、プラスチック製品など9業種

月例調査

全産業の「売上高」は増加

前回調査 2019年8月

◇10月調査による[北信地区の経済状況]

全産業(不動産業・旅館業を除く)の売上高前年比「増
加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(33%)

が4ポイント増加、「減少」割合(30%)が横ばい、「不変」
割合(37%)が3ポイント減少、全体としては増加の状況
です。

●売上高(生産高・施工高)前年比「増加・不変・減少」割合

矢印は前回調査比
(3ポイント以上の動き)

↗ 増加 → 不変 ↘ 減少
↖ 改善 ⇨ 不変 ⇩ 悪化

全産業 (不動産業・旅館業を除く)	前回			今回	今回			回収率	30人未満	30人以上
	増加	不変	減少	増加	不変	減少				
全産業	29.3 ↗	40.3 →	30.4 ↘	33.2 ↗	36.9 ↘	29.9 →	↗	192社(回収率80.0%)	75.5%	24.5%
製造業	32.8 ↗	31.3 ↘	35.9 ↗	32.1 ↘	37.5 →	30.4 ↗	↘	65社(回収率77.4%)	69.2%	30.8%
建設業	32.1 ↘	37.5 →	30.4 ↗	32.1 ↘	37.5 →	30.4 ↗	↘	56社(回収率78.9%)	89.3%	10.7%
卸小売業	25.0 ↗	55.0 ↗	20.0 ↘	25.0 ↗	55.0 ↗	20.0 ↘	↗	40社(回収率74.1%)	90.0%	10.0%
サービス業	55.6 ↗	11.1 ↘	33.3 ↘	55.6 ↗	11.1 ↘	33.3 ↘	↗	9社(回収率100.0%)	88.9%	11.1%
輸送業	42.9 →	28.5 ↘	28.6 ↗	42.9 →	28.5 ↘	28.6 ↗	↘	7社(回収率70.0%)	14.3%	85.7%
外食業	50.0 ↗	25.0 ↘	25.0 ↘	50.0 ↗	25.0 ↘	25.0 ↘	↗	8社(回収率80.0%)	37.5%	62.5%

製造業

食料品、金属加工品、一般機械、電気機械、自動車部品、精密機械

「生産高」電気機械・自動車部品が増加するも、全体は減少

製造業の生産高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(33%)が4ポイント増加、「減少」割合(36%)が7ポイント増加、「不変」割合(31%)が11ポイント減少、全体としては減少の状況です。

●生産高前年比「増加・減少」割合(%)

製造業	前回	28.8	42.4	28.8
	今回	増加 32.8	不変 31.3	減少 35.9
食料品		50.0	14.3	35.7
金属加工		30.8	30.7	38.5
一般機械		25.0	37.5	37.5
電気機械		20.0	80.0	0.0
自動車部品		0.0	66.7	33.3
精密機械		16.7	16.6	66.7

【業種別】 増加…電気機械・自動車部品
横ばい…食料品
減少…金属加工・一般機械・精密機械

【機械稼働】(前回比)稼働率 下降

上昇割合 (23%) → 19%
下降割合 (15%) → 25%

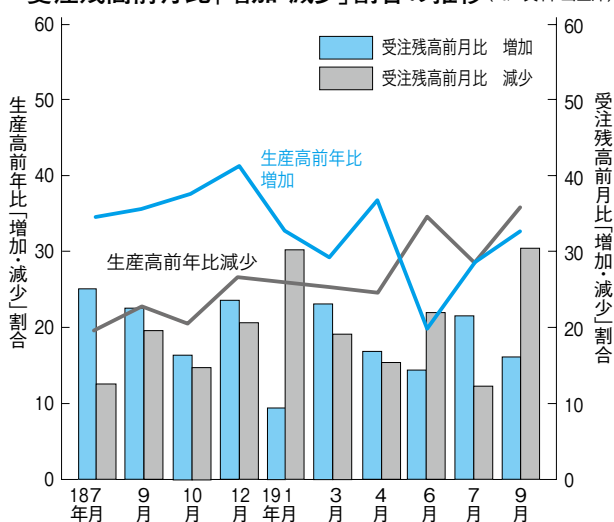
【受注状況】受注量(前回比) 下降

増加割合 (22%) → 16%
減少割合 (12%) → 31%
受注残高(1.3カ月) → 1.5カ月

【受注基調】(前回比) 下降

上昇割合 (26%) → 19%
下降割合 (15%) → 29%

●生産高前年比「増加・減少」割合と受注残高前月比「増加・減少」割合の推移(%)資料:当金庫

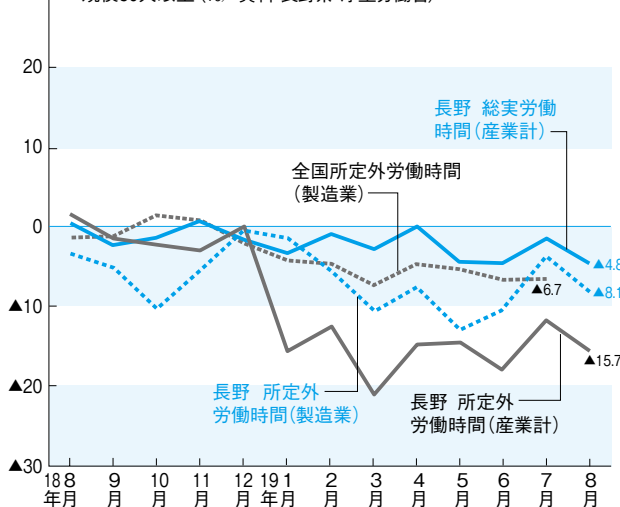


企業からのコメント

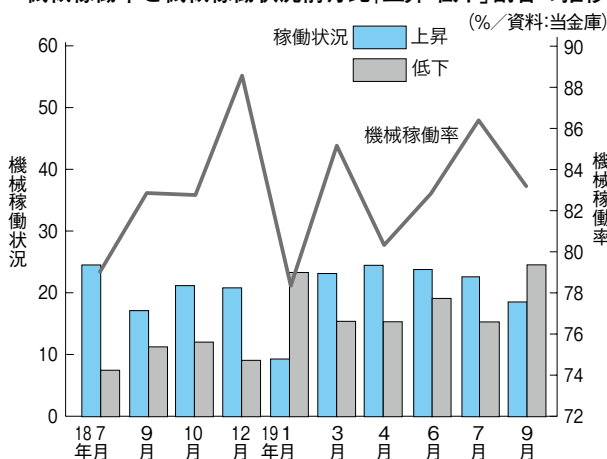
- ★食品の消費税は8%であるが、製造にかかる税は10%なので、問題の多い税制である。(農産物加工品)
- ★消費増税の影響もあるが、業界では新食品表示法の方が大きく、改訂が増えている。(シール・ラベル)
- ★工作機械関連は減少、制御盤は不変。パソコンはウィンドウズ7終了に伴う増産、eスポーツ系は好調。(パソコン・制御盤)
- ★災害復興にかかわる設備関連の受注が増加した。(輸送用機器部品)
- ★半導体は底打ち感が出てきた。工作機械は底が見えない状況になってきている。(工作機械部品)
- ★先行きが見通せない。(射出成型機)
- ★大手半導体関連が上昇に向かうのは来春以降としているようだが、根拠が不明。(石英ガラス製品)

●長野県の労働時間の動き<前年同月比>

規模30人以上(%)資料:長野県・厚生労働省



●機械稼働率と機械稼働状況前月比「上昇・低下」割合の推移



建設業

総合建設、土木工事、建築、各種設備

「施工高」建築・各種設備は増加したが、全体は減少

概 況

建設業の施工高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合（32%）が3割減少、「減少」割合（30%）が3割増加、「不変」割合（38%）が横ばいとなり、全体としては減少の状況です。

●施工高前年比「増加・減少」割合（%）

建設業	前回	34.5	38.2	27.3
	今回	増加 32.1	不変 37.5	減少 30.4
総合建設業	20.0	50.0	30.0	
土木工事業	27.3	18.2	54.5	
建築業	26.3	52.6	21.1	
各種設備業	57.1	28.6	14.3	

【業種別】 増 加…建築・各種設備

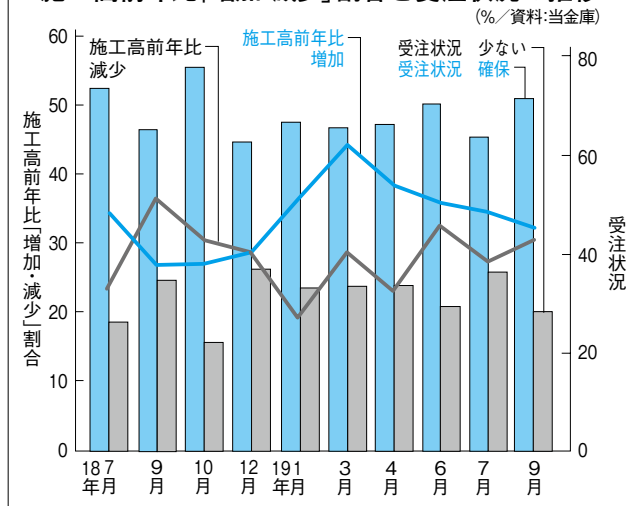
減 少…総合建設・土木工事

【受注状況】 受注残高(前回比) 改善

「多い・適正」割合 (64%) → 71%

「少ない」割合 (36%) → 29%

●施工高前年比「増加・減少」割合と受注状況の推移



企業からのコメント

☆★いつも通りと書こうと思った矢先に台風19号。しばらくは災害復旧工事対応のみ。(土木工事業)

★☆人手不足は業界全体で続いている。福利厚生として、従業員全員に熱中症対策のファン付き上着を支給した。

★引き合いから受注につながりそうだが、利益率が上がりそうにもない。(以上総合建設)

4～9月の公共工事 (東日本建設業保証取扱分)

長野県の4～9月の発注合計は、1,227.8億円(前年同期比+13.8%)となりました。前年比プラスは「県」の367.9億円(同+54.5%)、「市町村」の419.3億円(同+13.1%)で、マイナスは「国」の209.9億円(同▲4.0%)、「そのほか」の226.5億円(同▲9.6%)です。

北信地区市町村の発注合計は136.6億円(同+2.3%)で、うち長野市は67.4億円(同+70.2%)でした。

●建設業保証取扱分から見た長野県と北信地区市町村の公共工事の状況(2019年9月/2019年4月～9月累計)

(単位＝百万円／資料：東日本建設業保証㈱)

		2019年9月	前年同月比	2019年4月～9月	前年同期比
長野県	国	1,413	▲37.6%	20,994	▲4.0%
	県	3,558	▲10.1%	36,789	54.5%
	市町村	5,822	1.7%	41,926	13.1%
	そのほか	1,353	128.0%	22,655	▲9.6%
	合 計	12,147	▲3.1%	122,778	13.8%
北信地区	市町村	2,607	122.0%	13,658	2.3%
	(内長野市)	2,155	219.5%	6,744	70.2%

4～9月の新設住宅着工戸数

長野県の4～9月の新設住宅着工戸数は6,876戸(前年同月比+4.1%)でした。持家が3,933戸(同+8.2%)、貸家が1,874戸(同▲6.0%)、分譲が1,065戸(同+11.5%)、給与が4戸(同▲78.9%)です。

北信地区の4～9月の新設住宅着工戸数は2,031戸(同+5.2%)でした。持家が1,136戸(同+17.1%)、貸家が508戸(同▲10.6%)、分譲が387戸(同+1.3%)、給与が0戸(同▲100.0%)です。

●北信地区と長野県の新設住宅着工戸数(2019年9月/2019年4月～9月累計)

(資料：長野県)

		持 家	貸 家	分 譲	給 与	合 計
北信地区	9月	147戸	31戸	35戸	0戸	213戸
	(内長野市)	86戸	26戸	24戸	0戸	136戸
	前年同月比	30.9%	▲49.3%	2.9%	—	2.2%
	(内長野市)	24.6%	▲62.3%	33.3%	—	▲12.8%
	4～9月	1,136戸	508戸	387戸	0戸	2,031戸
	前年同期比	17.1%	▲10.6%	1.3%	▲100.0%	5.2%
長野県	9月	576戸	210戸	98戸	0戸	884戸
	前年同月比	7.1%	▲2.8%	▲21.0%	—	0.7%
	4～9月	3,933戸	1,874戸	1,065戸	4戸	6,876戸
	前年同期比	8.2%	▲6.0%	11.5%	▲78.9%	4.1%

卸小売業

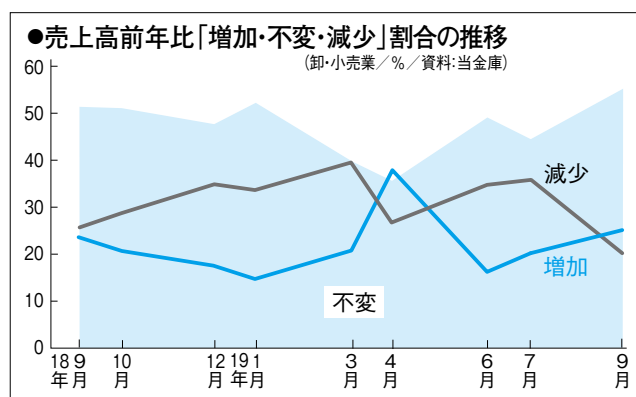
卸売業、小売業

「売上高」卸売・小売ともに増加

卸小売業の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(25%)が5ポイント増加、「減少」割合(20%)が16ポイント減少、「不変」割合(55%)が11ポイント増加し、全体として売上は増加の状況です。

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

卸小売業	前回	20.0	44.4	35.6
	今回	増加 25.0	不変 55.0	減少 20.0
卸売業		35.0	55.0	10.0
小売業		15.0	55.0	30.0



【業種別】 増加…卸売業・小売業

9月の消費者物価指数(長野市) 2015年基準=100

◇総合指数(確報値)……102.8 (36カ月連続のプラス)

(前月比+0.1%、前年同月比+0.5%)

上昇…「食料品」「被服及び履物」「家具・家事用品」

下落…「教養娯楽」「交通・通信」「光熱・水道」

◇生鮮食品を除く総合指数…102.5 (33カ月連続のプラス)

(前月比▲0.1%、前年同月比+0.5%)

企業からのコメント

★台風と休日が重なり客数減少。増税と軽減税率の対応で、販売効率が下がるのが心配。(土産品小売)

★例年売上が増加する9月も、売上は低調な状況が続いている。(和菓子小売)

☆消費税増税に伴い、駆け込み需要があり、前年同月比を大きく上回った。(酒類卸小売)

★☆消費税増税は、重量税軽減と相殺され、影響は少ない。(自動車)

☆消費税増税前は、タイヤなどがよく売れた。キャッシュレス決済が増加している。(自動車・バイク)

サービス業

サービス、輸送、外食、観光、不動産

「売上高」サービス・外食は増加、輸送は減少

サービス業 売上高前年比「増加」割合は22ポイント増加の56%、「減少」割合は11ポイント減少の33%、「不変」割合は11ポイント減少の11%と、売上は増加の状況です。

輸送業 売上高前年比「増加」割合は2ポイント減少の43%、「減少」割合は6ポイント増加の29%、「不変」割合は5ポイント減少の29%と、売上は減少の状況です。タクシーは減少、運送は増加しています。

外食業 売上高前年比「増加」割合は21ポイント増加の50%、「減少」割合は4ポイント減少の25%、「不変」割合は18ポイント減少の25%と、売上は増加しています。

観光(旅館)業 入込数は平均で前月比9ポイントの減少、前年同月比は5ポイント減少で、宿泊利用は伸び悩んでいます。

不動産業 需給状況は前回に比べ、「双方手控え・どちらも低調」は8ポイント増加の64%、「引合いやや増加」は16ポイント増加の27%でした。

企業からのコメント

★消費税増税・選挙など、3連休が2週つづいたことにより、減収になったかもしれない。(タクシー)

☆★増税前の駆け込み需要の影響で、荷動きは活発化した分野もあるが、10月以降の反動が懸念される。

★運転手不足が、深刻な問題となっている。(以上貨物輸送)

☆★キャンペーン効果で売上は増加しているが、その狭間は来店客が減少する。(ファーストフード)

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

サービス業	前回	33.3	22.3	44.4
	今回	増加 55.6	不変 11.1	減少 33.3
輸送業	前回	44.4	33.4	22.2
	今回	42.9	28.5	28.6
うちタクシー業				
		0.0	0.0	100.0
うち運送業				
		50.0	33.3	16.7
外食業	前回	28.6	42.8	28.6
	今回	50.0	25.0	25.0

●「キャッシュレス決済」への対応

「既に導入」20% 「導入を予定」5% 「導入を検討」13%
「導入しない・関心がない」48% 「わからない」13%

「『キャッシュレス決済』でどのような対応をしているか」を聞きました。

「既に導入している」は20%、「導入を予定している」は5%、「導入を検討している」は13%でした。ほかに「導入しない・関心がない」が48%、「わからない」が13%となっています。

従業員規模で比べると、30人未満は「導入はしない」(15%)が9割、「導入する必要がある」(30%)が5割、30人以上より高く、30人以上は「既に導入」(29%)が12割、「検討中」(17%)が5割、「導入予定」(8%)が5割、30人未満より高くなりました。

業種別

建設	「導入する必要がある」	41%
	「全く関心がない」	12%
卸小売	「導入を検討中」	23%
サービス	「既に導入している」	34%
	「導入はしない」	22%
	「導入予定である」	12%

製造業 「全く関心がない」(0%)が他業種に比べ最も低くなっています。

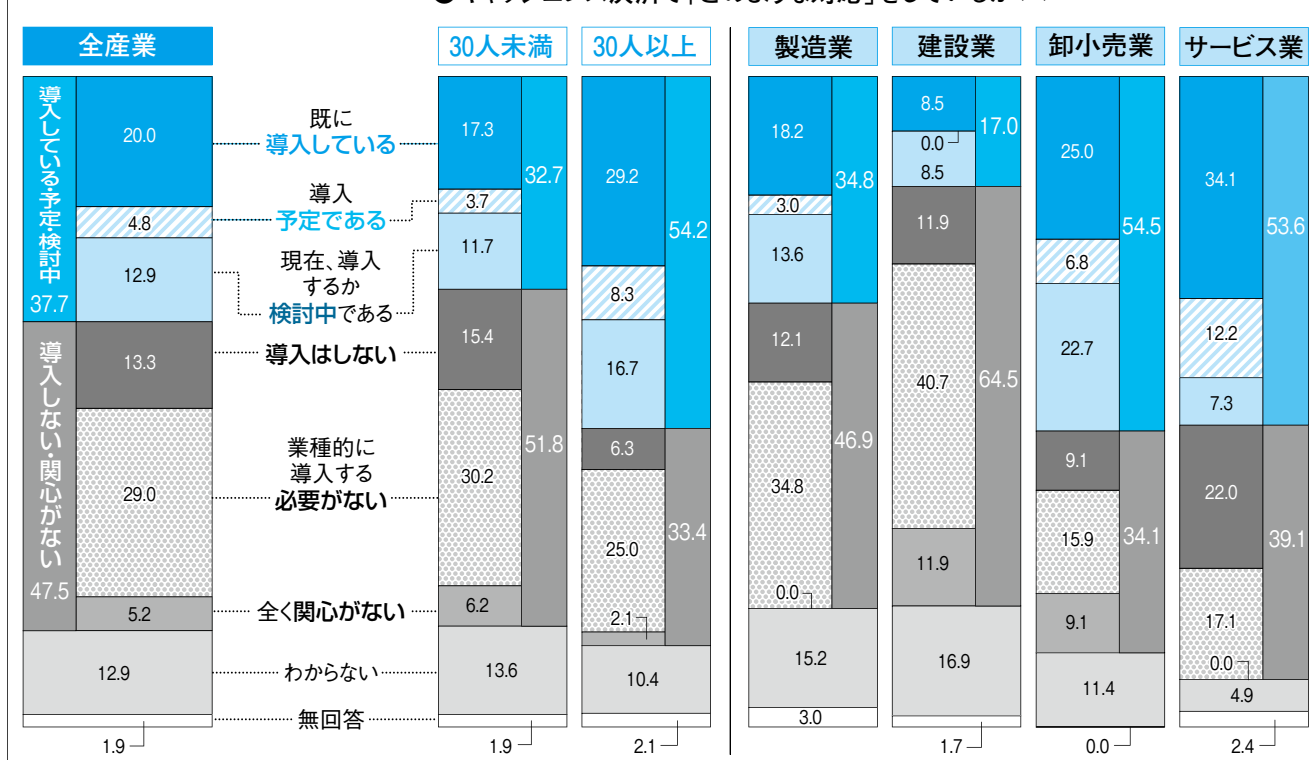
建設業 「業種的に導入する必要がある」(41%)

と「全く関心がない」(12%)が他業種に比べ最も高く、「既に導入している」(9%)と「導入予定である」(0%)が他業種に比べ最も低くなっています。

卸小売業 「導入を検討中」(23%)が他業種に比べ最も高く、「業種的に導入する必要がある」(16%)、「導入はしない」(9%)が他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業 「既に導入している」(34%)、「導入はしない」(22%)、「導入予定である」(12%)が他業種に比べ最も高く、「導入を検討中」(7%)、「全く関心がない」(0%)が他業種に比べ最も低くなっています。

●キャッシュレス決済で「どのような対応」をしているか(%)



「キャッシュレス」の決済方法

「クレジットカード」	40%	「口座振替」	32%
「電子記録債権」	13%	「スマホQR決済」	10%
「そのほか」	8%	「活用していない」	31%

「『キャッシュレス決済』でどのような支払方法を活用しているか」を聞きました。

最も高いのは「クレジットカード」(40%)で、次

いで「口座振替」(32%)、「電子記録債権」(13%)、「スマホQRコード決済」(10%)の4項目が2ケタになり、「活用していない」は3割でした。

従業員規模で比べると、30人未満は「活用していない」(37%)が25ポイント、30人以上より高く、30人以上は「クレジットカード」(54%)が18ポイント、「口座振替」(40%)が9ポイント、「電子記録債権」(31%)が23ポイント、「電子マネー」(8%)が6ポイント、30人未満より高くなりました。

業種別

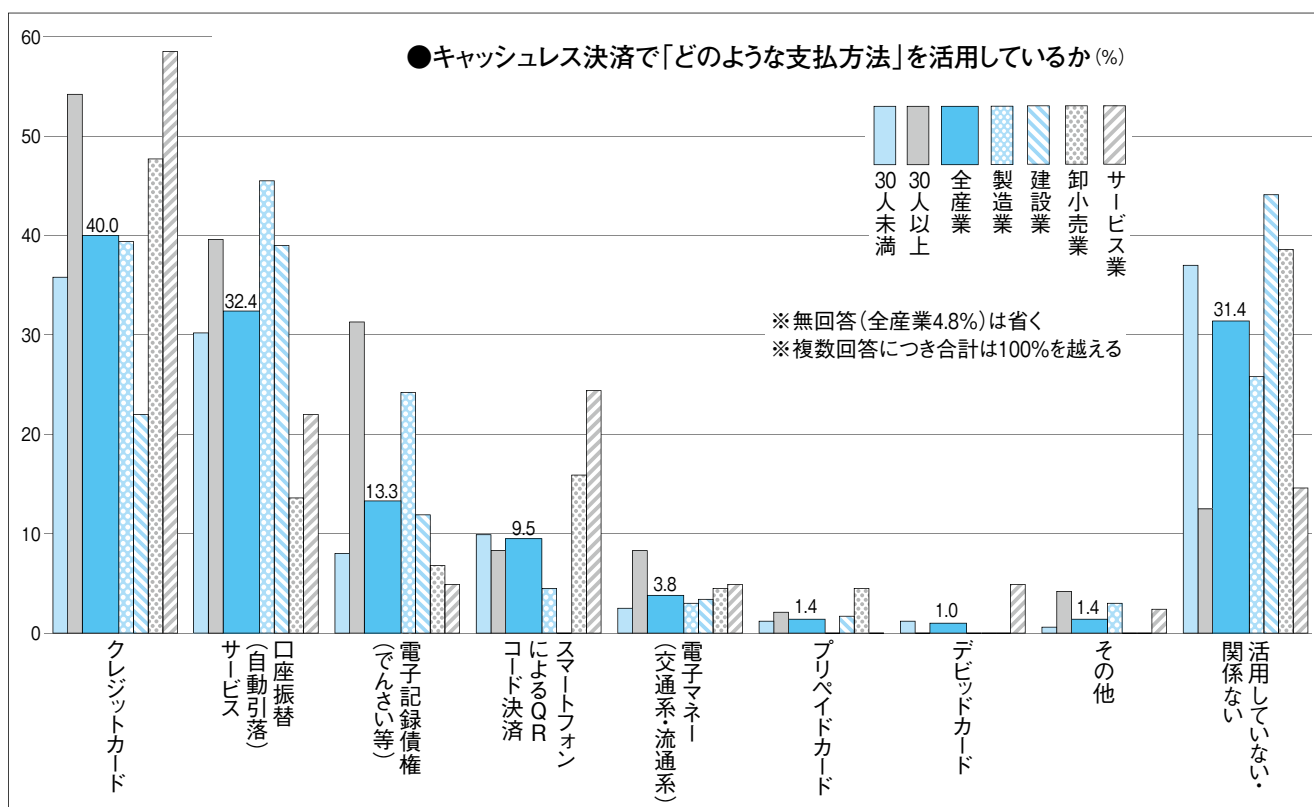
製造	「口座振替」	46%
	「電子記録債権」	24%
建設	「活用していない」	44%
卸小売	「プリペイドカード」	5%
サービス	「クレジットカード」	59%
	「スマホQRコード決済」	24%
	「電子マネー」	5%
	「デビットカード」	5%

製造業 「口座振替」(46%)、「電子記録債権」(24%)が他業種に比べ最も高くなりました。他方「電子マネー」(3%)、「プリペイドカード」(0%)、「デビットカード」(0%)が他業種に比べ最も低くなっています。

建設業 「活用していない・関係ない」(44%)が他業種に比べ最も高く、「クレジットカード」(22%)、「スマホQRコード決済」(0%)、「デビットカード」(0%)が他業種に比べ最も低くなっています。

卸小売業 「プリペイドカード」(5%)が他業種に比べ最も高く、「口座振替」(14%)、「デビットカード」(0%)が他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業 「クレジットカード」(59%)、「スマホQRコード決済」(24%)、「電子マネー」(5%)、「デビットカード」(5%)が他業種に比べ最も高く、「活用していない・関係ない」(15%)、「電子記録債権」(5%)、「プリペイドカード」(0%)が他業種に比べ最も低くなっています。



インタビュー 変革期の経営ビジョン



従業員親子が “一緒に働く”会社を！

三立電機 株式会社
株式会社 三 立
山本将道さま

最初に、この度の台風19号で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

●創業の経緯から伺います…

昭和20年、祖父が東京で個人創業したのが始まりです。当初は無線機などの板金・組立てなどの仕事を中心だったそうです。しかし、仕事は順調でしたが、売上金の回収が思うように出来ずに倒産してしまいます。その後、祖母の実家がある長野に拠点を移し、医療関係の製造会社を設立しましたが、同じ理由で倒産してしまいました。

昭和34年に(有)三立電機製作所を設立し、父は電子科を卒業して入社しました。業務内容は、近くの富士通長野工場様からの仕事がメインで、プリント基板の実装や板金製造の仕事などを受注していました。当時は、好景気で仕事はいくらでもあったそうです。

「三立」という社名の由来ですが、祖父の時代に二度の倒産を経験していますので、“3回目で立ち上がるぞ”という意気込みを会社名に込めたそうです。また、確実に売上金が回収できるよう、大きな企業とお付き合いしていこうということで、富士通長野工場様と正式に取引を始めたことは、当社にとって大きなメリットとなりました。現在も友好的な関係が続いています。

●会社に関わった経緯について…

私は小学校の頃から、たびたび会社に遊びに

行きながら将来はこの会社で働くことを知り、また、中学校を卒業するころには、親の跡取り以外の選択はないことを自然に感じていました。

大学卒業時に、すでに三立への入社が決まっていた。ちょうどその時期に、会社がフィリピンに進出することが決まっており、これからは英語が話せないともずいということ、1年半ほどアメリカ留学をしました。実践的な英語と海外の人との交流を経験し、平成8年に帰国し入社しました。その年は、当社のフィリピンの会社はすでに設立されていました。

入社後、自社の実状を知るために教育係をつけていただき、事前勉強をした上で、先輩方のサポート役として、フィリピン工場の従業員教育、通訳、図面作成として毎月フィリピンへ出張をしました。

当時、フィリピン工場の従業員は200人で、日本と同様にプリント基板の実装と組立・板金業務をしていました。

●環境に配慮した取り組みは…

環境マネジメントシステムと経営をリンクさせた「環境経営システム」の国内規格の一つである“エコアクション21”を認証取得しています。会社独自というより、第三機関から審査を受けながら毎年更新しています。取引先からも、環境について求められていますので、当社の実態に合ったかたちで推進しています。

●従業員の教育や資格などに関して…

製造業において、ほとんどの企業が取り組んでいることですが、「提案箱」を設置し、社員がいつでも提案できるようにしています。しかし当初は提案というよりクレームばかりが目立ちました。全ての提案を社内に掲示して、社員がいつでも見られるようにし、管理者が提案に対してどのような対応をしたらよいかのコメントを付けるよう改善しました。その結果、最近では従業員の意識も上がり、提案制度も活発にな

っています。これは、フィリピンの現地工場でも同じように設置させています。

提案に対して、管理者が丁寧に応えてくれることが分かると、従業員の発想も充実し、前向きな提案が増えることがよく理解できました。

また、従業員の技量に対する「社内認定制度」も行っています。こちらも、取引先から要求されていることです。

管理者からの要求だけではなく、従業員それぞれが仕事に対して、どんな技術を取得すればよいかを自主的に考えて行動する。そんな従業員が増えてほしい……思いで実施しています。

また、板金に従事する従業員には、溶接技能資格を積極的に取得させています。多くの従業員が資格を持つことは、お客さまに対するアピール度が違ってきます。

今後の展望としては、製造部門の従業員の3



松岡工場



フィリピンカビテ工場

割ぐらいが海外実習生になるだろうと考えています。そうすると、海外実習生のための認定制度を日本人と同レベルに引き上げられるかが課題となります。海外実習生は、将来的に我が社の戦力にもなるわけですから、力を入れていきます。

教育や資格取得は、社員のモチベーションのアップにもつながると感じています。

●今後の方針や目標について伺います…

当社は私の考える「中小企業」としてはやや大きすぎると感じています。それは、規模を小さくしたいわけではなく、従業員とは“家族のようなかたち”で一緒に仕事したいという考えが一番の根底にあるからです。

できるだけ、従業員の子どもの入社してもらいたい……親が“この会社だったら一緒に働いてもいいな”と思える会社にしていきたいですね。

これからももっと従業員との絆を強くしていきたいと考えています。

●事業の概要（国内外各合算）

国 内	三立電機(株)、(株)三立、ヒット(株)
創 業	1972(昭和47)年
資本金	10,000万円
従業員	250名
業 務	電機機械器具製造
事業所	長野市大字風間2034-10
海 外	SGIC, STSI
創 業	1996(平成8)年
従業員	1200名
業 務	電機機械器具製造
事業所	フィリピン(カビテ、ラグナ、スービック)
U R L	http://sannritsu-ltd.co.jp

●沿革

1959(昭和34)年	(有)三立電機製作所に改組
1972(昭和47)年	三立電機(株)を設立
1985(昭和60)年	板金部門を(株)三立に社名変更
1990(平成2)年	山形県に(株)三立新庄工場完成
1996(平成8)年	フィリピンに三立グレートインターナショナルコーポレーションを設立
2000(平成12)年	新潟県にヒット(株)を設立
2001(平成13)年	フィリピンに三立テクノロジー・スービックインターナショナルコーポレイテッドを設立

北信濃 江戸時代の風景

(63) せき止められた犀川

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



地震による大洪水

本年度は、弘化4年（1847）に起こった善光寺地震を記録した『地震後世俗語之種』（国立国会図書館本）の挿絵を用いています。

善光寺地震が起こったのは、3月24日（太陽暦では5月8日）の午後10時ころでした。これにより長野市信更町の虚空蔵山（岩倉山・764m）が崩落して、犀川をせき止めました。犀川にできた天然ダムはやがて現在の安曇野市明科にまで達し、犀川沿いの村々は湖中に沈みました。このダムは4月13日の午後になって決壊し、大量の水が善光寺平に押し出し、大洪水となりました。水の前線は千曲川を越え、松代にまで達しました。

絵の左側を読む

下の絵の左側の上部が「虚空蔵山」（岩倉山）の山



虚空蔵山拔崩、犀川湛水の図（国立国会図書館蔵『地震後世俗語之種』より）

絵の右側を読む

右側は水没した村々が描かれています。上部には、「山中虚空蔵山稜(拔)崩、犀川之大川ヲ止メ、湛水ニ民家浮沈流失之大畧。下之卷ニ委鋪ス」と書いてあります。完全に水没した村々は「水中」、半分水没した村々は「半水」と書かれています。

右端は現在の長野市信州新町で、「花倉」(道の駅の上の集落)、「舞台」「平水内」「橋場」などが水没しています。「橋

場」には「久米路曲橋」が描かれています。県歌「信濃の国」にも歌われた久米路橋は、途中で直角に曲がっているので、「曲橋」とも呼ばれるのです。その背後の大岩が「立岩」です。

久米路橋の対岸は現在の長野市信更町で、「今泉」「浅野」「氷熊」「山平林」が「半水」となっています。「上ヶ尾」(上尾)と「平三水」は「水中」となっています。「三水」には「仁王」で知られた「長勝寺」がありますが、ここは高台なので無事でした。

このようにこの絵には地名と被害状況が記されていますが、永井善左衛門幸一が描いた原本にはこうした記入は一切ありません。この国会図書館本は松代の真田宝物館本を写したものです。松代藩が原本から写した時に、被害状況を文字で書き加えたのでしょうか。

山への避難

『地震後世俗語之種』には、人から聞いた話として、地震直後の川中島方面の人々の行動が記されています。地震のあったのは午後10時過ぎころで、ほとんどの人がすでに寝ていましたが、慌てて起きて外に飛び出し、大騒ぎになりました。

その時気が付いたのは、用水に水が流れていないことでした。地震によって水路が破損したのかと話し合っていたところ、誰かが「犀川の瀬音も



虚空蔵山の山崩れで無事だった真竜寺(長野市信更町安庭)

聞こえない」と言い出しました。確かに聞こえません。「あの大河が止まることなど、あるはずがない」と犀川に行って、わずかな月の光(24日は下弦の細い月が夜中に出る)で目をこらして見ると、果たして犀川の水がありません。

これは大洪水の前兆だと、人々は直感しました。とにかく高い所へ逃げなければと、我先に小松原や岡田(いずれも長野市篠ノ井)の山に駆け登りました。

翌日、若い者を家にやって、金銭や食料などを持ち帰らせました。そこに小屋を作って、当面住むことにしたのです。こうしたことが善光寺平の周囲の至るところで起きていました。それは大洪水に備えるというよりも、大津波を予知して待ち構えるというのに近かったでしょう。

松代藩の対策

松代藩は犀川の天然ダムの決壊を恐れ、犀川の出口の小市に高堤防を築こうと、数千人を使って昼夜兼行で工事を進めました。しかし4月13日に決壊した時、その工事は何の役にも立ちませんでした。

12月号は「高地への避難」の予定です。

この頁は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫について](#)

●「キャッシュレス決済」将来的な利用頻度

「今までと同等の利用頻度」44% 「増やしていきたい」39% 「わからない」12%

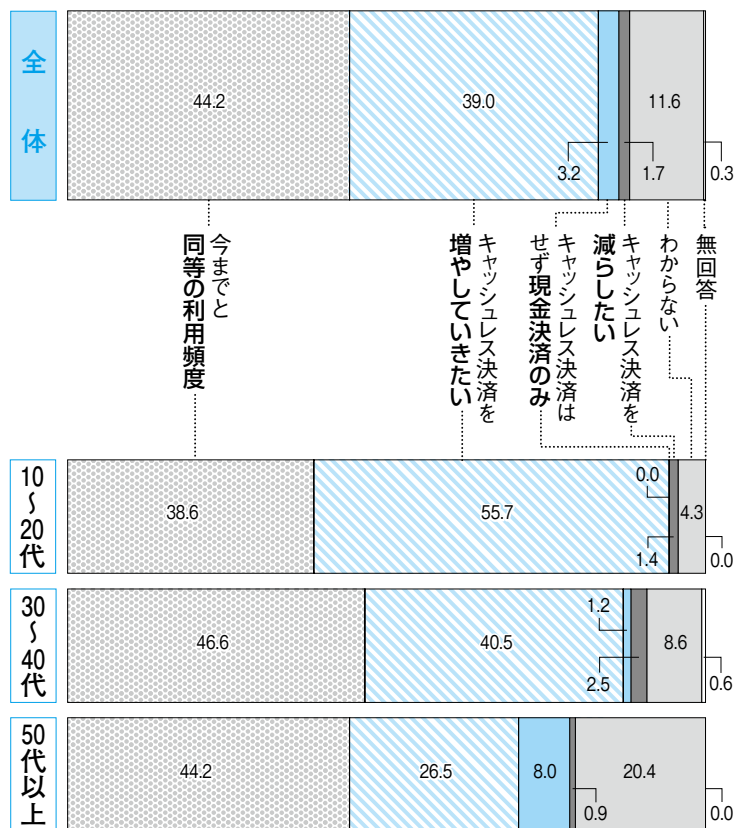
「『キャッシュレス決済の利用頻度』を、将来的にどうしたいと思うか」を聞きました。トップは「今までと同等の利用頻度」(44%)で、次いで「増やしていきたい」(39%)が高くなり、「現金決済のみ」と「減らしたい」は1ケタ、「わからない」は12%となりました。

世代別で見ると、10～20代は「増やしていきたい」(56%)が高く、30～40代は「今までと同等」(47%)がやや高く、50代以上は「増やしていきたい」(27%)が低く、「わからない」(20%)が高くなりました。

男女別で見ると、男性は「増やしていきたい」(44%)がやや高く、「今までと同等」(41%)がやや低くなりました。女性は「増やしていきたい」(31%)が低く、「今までと同等」(51%)が高くなりました。

〈当金庫・2019年9月調査〉

●将来、「キャッシュレス決済の利用頻度」を、どうしたいと思うか(%)



●みなさまの経営相談のご案内 [12月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
12月 3日 火	若槻支店 (城北支店)	東長野支店 (柳原支店)	12月16日 月	石堂支店 (伊勢宮支店)	七瀬支店 (南支店)
4日 水	長池支店 (大豆島支店)		18日 水	篠ノ井支店 (川柳支店)	松代支店 (更北支店)
6日 金	稲荷山支店 (屋代支店)	上山田支店 (戸倉支店・坂城支店)	19日 木	大門町支店 (桜枝町支店)	飯綱支店
9日 月	須坂支店 (墨坂支店・太子町支店)	豊野支店	23日 月	本店営業部	古里支店 (吉田支店)
11日 水	中野支店 (小布施支店)	山ノ内支店 (飯山支店)	25日 水	本 部	
13日 金	権堂支店 (善光寺下支店)	川中島支店 (川中島駅前支店)	26日 木	本 部	

●12月の「しんきん事業相談会」は12月4日(水)です



長野信用金庫 総合企画部

本店 〒380-8686 長野市居町 133-1 TEL 026-228-0221(代)

長野信用金庫 URL <http://www.nagano-shinkin.jp/>

